

小林 守(専修大学商学部教授)

メコン・クロスボーダー地域と ビジネス環境

－物流, 生産, 消費をめぐって－

専修商学論集 No.101
pp.33~47 2015.7.

本論考は、大陸部東南アジアに属するベトナム、ラオス、カンボジア、タイ、ミャンマーがクロスボーダー生産分業地域を形成しているとみなし、分業体制を可能にしている東西経済回廊や南北経済回廊を実査し、また周辺地域の企業へのインタビューを通じてそのビジネス環境を明らかにしようとするものである。

まず、著者は「はじめに」において問題意識を明らかにする。日本の製造業は1990年代中国での生産拠点を急速に拡大したが、「増値税（付加価値税）還付の優遇制度の廃止、コスト上昇、過当競争による価格転嫁の難しさがあり、工場維持ができなくなった」そのため、いわゆる「チャイナプラスワン」として注目されたのがタイである。

「タイは長年、多くの日系企業が進出し、生産、販売のネットワークに関して多くの蓄積、資産がある。取引先も多く、これを生かす形でタイにおいて商流を発展させようとする企業は多く存在する。但し、コストの上昇は急テンポで進んでおり、持続的な経営を目指すにあたっては、周辺のベトナム、ラオス、カンボジアへの生産分業という形態での展開がより重要な意味を持つようになる。」

そこで注目を浴びているのがメコン地域の物流を結ぶ「東西経済回廊」と「南北経済回廊」である。これらのインフラ整備を背景に著者は、

「ベトナム、カンボジア、ラオスそしてミャンマーのいわゆる『メコン地域諸国』という、この地域への日本企業の進出は着実に増加するであろう」と予測する。

第2章では、著者が2014年9月に実査した「東西経済回廊」の現状が報告されている。ベトナムのダナン市でバスをチャーターし、ラオスのサバナケットへの片道500キロメートルを往路12時間、復路11時間の調査である。

第3章は、メコン・クロスボーダー地域における生産状況と生産環境の実態報告である。まず、ベトナムとラオスの国境地帯にあるベトナム側のラオバオSECA（特別経済・商業地域）、ラオス側のデンサワン特別経済区、また同国境からラオス側に入ったサバナケットのサワン・セノ経済特区工業団地、さらに2014年2月の実査による南部経済回廊におけるプノンペン経済特区を取り上げている。

第4章は、メコン地域の消費市場を分析しており、本論考の白眉である。ベトナムの消費市場の特徴として人口構成が若く、インターネット購買など購買行動が急速に多様化、分化しつつあるとしながらも、家族重視の大家族主義の影響を指摘している。筆者はベトナムのこの「大家族主義」を、中国の消費行動に影響を与えている「核家族化と空巣家族化」と比較する。特に「空巣家族化」は老人だけの世帯あるいは独居老人世帯が急速に増えている中国では、消費行動に深刻な影響を与えつつある、としている。「ベトナム等のメコン地域においてはこうした中国とは異なる消費行動になってゆくであろう」との指摘は示唆的である。

最後に、筆者は今後メコン・クロスボーダー地域へ進出する企業は増加すると見込まれるものの、「中長期的現地に定着した事業を行うため

には進出先の消費市場発展の可能性も極めて重要である」としている。

評者が2015年12月に、カンボジア・プノンベンとベトナム・ホーチミン市で実施した南部経済回廊に関する進出企業へのインタビューでは、ベトナム、カンボジア、タイでそれぞれ走行に免許が必要なため、トラックの乗り換えが必要になっていること、ベトナム・カンボジア国境、タイ・カンボジア国境にある工業団地へは、共に空トラックで行って製品を運んでくる片荷のため現状では採算が悪いことなどから、南部経済回廊の交通量はほとんど増えていない、とのことであった。両経済回廊によるメコン地域の陸送ネットワークは、未だ理念先行で実態が伴っていないとの印象を受けたものである。著者自身も、「まだ『優先的に』選択される主要な物流ルートにはなっていないということも残念ながら現実の一面としてとらえておかなければならない」と述べており、評者の見解と矛盾しない。

技術的な面ではあるが、メコン地域の地図の上に各経済回廊を描き、それぞれの経済特区や工業団地の位置を示せば、本文をよりスムーズに理解できるのではないと思われる。

いずれにせよ、東南アジアの経済ネットワークを研究対象とする研究者のディシプリンは、おおむね経済学、開発経済学であることが多い。そのため、分析対象は生産活動であり、また調達・販売に関連する物流を中心としている。本論考の著者は商学の立場からアプローチしているため消費にも等分の配慮がなされており、ここに本論考の大きな意義があると思われる。著者は今後の研究課題として、各国の外資政策の実態面の把握を挙げており、成果が期待される。

(大阪経済大学経済学部特任教授 細川大輔)